

# God With Us

## Part 4: The Life and Writings of Solomon

### Love and Longing - Song of Solomon

#### Message 11 – The Courtship

##### Song of Solomon 1:1-3:5

神は我らと共に  
パート4：ソロモンの生涯と執筆  
愛と慕情 - ソロモンの雅歌

第11メッセージ-求愛  
ソロモンの雅歌 1：1 - 3：5

### はじめに

ソロモンの雅歌（文字通り、「ソロモンの雅歌」または、「最も優れた歌」）は聖書の中でも並び無き書物である。この本は男女の愛における課題に完全に専念した唯一の本である。夫と妻との結婚における神の計画を肯定し、結婚による結束の贈り物を祝う。（ソロモンは1,005にも及ぶ歌を書いた【参照：第一列王記4：32】。そして雅歌は、ソロモンの書いた全ての歌の中でも最も上位に位置付けられる！）

物理的愛の描写（比喩的ではあるが）が用いられているために、古代ユダヤ人文化では、若い男の子たちは結婚準備が整うまでソロモンの歌を読むことは許されなかった。歴史を通して、神が性を直接取り扱う本を靈感によって書かれたという考えに苦しんできた。したがって、寓意的な（象徴的な）解釈として、神とイスラエル、すなわちキリストと教会の間のラブストーリーと見なしている人も多い（AD200年以降）。しかし、神と人類の愛に間違いはないが、主に男女間の関係を意味

している。神は愛と性の問題に取り組むことを恥じられない。所詮、性とは、人間が育くみ、楽しむために神が与えてくださった特別な贈り物である。

最終的に700人の妻と300人の妾がいたという事実を考慮すると、ソロモンが愛の本を執筆することについて正当な懸念がある。（その本はソロモンの治世の早い時期に作ったものかもしれないことも含めて、60人の王女、80人の妾と数知れぬ処女（おとめ）が6章8節で言及されている。シュラムの女は61番目の王女であった！）ソロモンは、決して愛の模範ではなかった。しかし、この愛の本の主なスピーカーと究極のヒロインは、ソロモンではなくシュラムの女であった。彼女はソロモンよりも愛の心髄を深く見ている。ソロモンの詩は、完全に彼女の肉体的美に焦点を当てている傍ら、シュラムの女の詩は、ソロモンの肉体的特性を賞賛しつつも、強い幸せな結婚を築くために必要なより深いものに触れる。下記の素晴らしい注釈は、偉大なドイツの学者のフランツ・デリツシュがこの物語の女主人公であるシュラムの女について述べたものである：

シュラムの女は、パロの娘ではない。彼女の思考の範囲は王の娘のものではなく、素朴な乙女のものである。彼女は、イスラエルの娘たちの中で見知らぬ存在であった。異国の地から来た者であるからではなく、田舎者であったからである。彼女の肌は黒かった。南部の田舎の太陽のたてではなく、ブドウ園の番人として浴びた日差しのためであった。彼女は身も心も王女として生まれた、しかし、現実の世界では、ガリラヤの遠隔地の謙虚な家族の娘であった。それゆえ、子供のような素朴さと田舎らしい思考、広々とした野外から来る喜び、そして田舎の静かな生活への憧れが備わっていた。ここでソロモンは、千人の女たちの中で見たこともない女性と愛の交わりを持っていたようである（伝道者の書7：28）。社会的階級がはるかに低い彼女を彼と同等に引き上げた。彼女をソ

ソロモンに結び付けた魅力は、外見の美しさだけではなく、生き生きとし、魂の高貴さによって高められた内面的な美しさであった。彼女は、素朴な献身、あどけない純真さ、汚れない謙虚さ、道徳的な純粹さ、率直な慎重さ、つまり、ソロモンの栄光に満ちているというよりも美しく飾られた野のユリのようにであった。彼女の外見的な魅力だけでなく、優しさを備え、敬われるすべての美德を備えた女性の模範であることを示しているということに認識しない限り、雅歌を理解することは不可能である。彼女の言葉と彼女の沈黙、彼女の行為と苦しみ、彼女の楽しさと自己拒否、婚約者としての彼女の行動、花嫁として、そして彼女の母親に対する彼女の行動、彼女の妹たちに対する行動、兄弟に対する行動、すべてがまるで彼女の体が美しい花から形成されたかの如く、美しい魂の印象を与えた。ソロモンは、この少女を女王の階級に昇格させ、少女の如くこの女王の傍につく。簡素な者が賢明な男に簡素さを教え、さらに、彼女の謙虚さが王を彼女のレベルに引き寄せる、さらに、純粹さが王の衝動的なところを自制させる。彼女に続いて、ソロモンは喜んで、宮殿生活の喧騒と戦争の豪華さを田舎の簡素さに引き換え、彼女さえいけば喜んで山と牧草地をさまよい、彼女はソロモンと一緒に控えめな小屋に住むことに満足する（Keil-Delitzsch、旧約聖書の解説、第6巻より）。

要するに、シュラムの女は、箴言で登場した「知恵婦人」（彼女の教えから学ぶすべての人に呼びかけた）の実例であった。この本は、ソロモンとその花嫁が作った一連の詩、北部の田舎のシュラムの無名の女性から成っている。時折、友人や見物人のコーラスの介入がある（「エルサレムの娘」 - 1:5; 2:7; 3:5,10; 5:8, 16; 8:4）。これらのコーラスは、ソロモンの王宮の他の女性であった可能性もあるが、確信はない。明確な物語の展開を検出することは困難であるが、非常に叙情的な詩は一般に3つに区分され

る：求愛（1:1-3:5）、結婚（3:6-5:1）、成熟した結婚（5:2-8:4）、結論には主要な教訓がまとめられて（8:5-14）。

### 田舎の愛： 1：1－2：7

冒頭に、ソロモンとシュラムの女との出会いについて記述されている。二人は結婚式を待ち望みながら互いの愛を明らかにする。

**1：1－4．彼女が、**ソロモンは非常に望ましい人であることを肯定するところから始まる。ソロモンは肉体的に魅力的であるだけでなく、その名前（名声）は注がれた香水のようであった。彼女は、すべての女性がソロモンを慕っていることに何の不思議もないことを指摘している。

**1：5．彼女は、**色黒で可愛らしいと、自信の身体的独特性について触れている。彼女は、エルサレムの娘たちに自分の肌の色が黒いのは太陽の下での長時間労働によるものであることを説明している。

エルサレムの娘たちよ、比喩的だがわたしは黒いけれども美しい。ケダルの天幕のように、ソロモンのとぼりのように。  
(雅歌1：5)

シュラムの女は、「自分の肌の黒さについても心地よく受け入れていた」。彼女は自分が他と違うことを知っていた。しかし、周囲の見物人の視線に影響されて自分を失うようなことは無かった。関係において、健全な自尊心は夫婦関係において重要である。私たちは、確かに他者の自己価値を肯定することはできても、他の人に自尊心を与えることは出来ない。健全な自尊心は、先ず、親と兄弟が私たちに愛と肯定を注ぐことによって、家族の中で形成されるのが理想的である。シュラムの女は、彼女が母親にとって特別な存在であっ

たことを知っていた（雅歌6：9）。私たちは、成長と共に、神の目に神の子として尊いということを理解することによって自己価値を成長させる必要がある。

**1：6.** 彼女は、さらに、仕事を余儀なくされ、結果、自分自身を世話するのに十分な時間を費やさなかったことを指摘する。

わたしが日に焼けているがために、日がわたしを焼いたがために、わたしを見つめてはならない。わが母の子らは怒って、わたしにぶどう園を守らせた。しかし、わたしは自分のぶどう園を守らなかった。（雅歌1：6）

彼女の継母側の息子についての言及から、義理の兄弟らは姉妹のシュラムの女に彼らの労働を強いていた可能性が高い。シュラムの父親については一言も触れられていない。

旧約聖書の物語の中には、混合家族が頻繁に登場する（例：ヤコブの12人の息子と娘たち；ダビデの息子と娘たち）。いずれの場合も、憎しみ、嫉妬、虐待、放置、愛の欠如の例が存在した。新しい兄弟を真に知り合い、愛するようになるためには、親切と敬意を表するという決意とともに、膨大な時と対話が必要である。怒りや荒々しさは断じて禁物である。親には警戒と忍耐が必要である。頻繁に、効果的に家族を融合させることを助けるために外部の助言者が要する。

**1：7－8.** 彼女は、ある日、ソロモンの居場所を問うた。

わが魂の愛する者よ、あなたはどこで、あなたの群れを養い、昼の時にどこで、それを休ませるのか、わたしに教えてください。どうして、わたしはさまよう者のように、あなたの仲間の群れのかたわらに、いなければならないのですか。（雅歌1：7）

彼女は見知らぬ危険な男たちの間で美しさを隠すのではなく、愛し、安心できる男の存在下で美しさを開放し表現したいと願う。

**1：9－2：6.** 恋人たちは愛情あふれる言葉を交わす。二人はおそらく美しい木々の下の芝生上に休んでいたかもしれない。「わたしたちの床は緑、わたしたちの家の梁は香柏、そのたるきはいとすぎです。（1:16, 17）」

ソロモンは、彼女をパロの車の雌馬になぞらえる。彼女は美しい。彼女の目は鳩の様である。

彼女は、ソロモンをわたしの乳ぶさの間にある没薬の袋のよう・・・エンゲデのぶどう園にあるヘナナ樹の花ぶさのようであるとたとえた。

彼女は、ユリに満ちた谷間の中のユリにたとえる。しかし、ソロモンはそれに応えて、彼女をいばらの中にあるゆりにたとえた（特殊で唯一の）。

彼女は、林の木の中にあるリンゴの木にたとえて褒め返した（珍しい発見）。彼女はソロモンと二人っきりの時を楽しみ、愛の感情で克服されていた。

わが愛する者の若人たちの中にあるのは、林の木の中にりんごの木があるようです。わたしは大きな喜びをもって、彼の陰にすわった。彼の与える実はわたしの口に甘かった。彼はわたしを酒宴の家に連れて行った。わたしの上にひるがえる彼の旗は愛であった。干ぶどうをもって、わたしに力をつけ、りんごをもって、わたしに元気をつけてください。わたしは愛のために病みわずらっているのです。どうか、彼の左の手がわたしの頭の下にあり、右の手がわたしを抱いてくれるように。（雅歌2：3－6）

ソロモンとシュラムの女は、お互いを普通ではなく、特別に感じさせるために言葉を用いることに抵抗がなかった。彼らのロマンス語彙は、お互いの深い愛情を育むための非常に強力な道具となった。そのような工程の言葉は、私たちに勇気を吹き込み、気分を高め、望ましく感じる時、相手の前で恥ずかしがらずに喜んで裸になることが出来る（創世記2：25）。誉め言葉は、言葉で伝えることもよし、手紙にしてもよし。しかし、その誉め言葉が心から誠実に話されていることが重要である。

繰り返し：（2：7、3：5、8：4）

「エルサレムの娘たちよ、わたしは、かもしかと野の雌じかをさして、あなたがたに誓い、お願いする、愛のおのずから起るときまでは、ことさらに呼び起すことも、さますこともしないように。」（雅歌2：7）

彼女は、「エルサレムの娘たち」に愛の関係を不健全なペースで動かすようなことをしないようにアドバイスする。愛は適切な時間と空間を与えて、適切かつ完全に開花させる必要がある。

この本の後半で、シュラムの女が心と身体を保護した自己拘束と謙虚さを示す言葉の記述が重要である。彼女は鍵がかけられた庭であり、封入された泉、および密閉された噴水であった（4：12）。彼女は城壁であった（8：10－誰にでも簡単に開くドアと対照的。）彼女は、自分のぶどう畑（彼女のからだ）は自分のものであることを知っていた（8：12）。シュラムの女は非常に感情的な女であったが、また、自制もしていた。彼女は恋人に相応しい時（結婚式の初夜）のみ、彼女の庭（彼女の体）に入れることを許可した（4：16b）。

男女の愛はスピードをもって発展していく。時に、私たち自身の欲求が物事を速く動かす原因となる。また、ある時は、友達や親類があまりにも早くものごとを推し進めようとする。肉体的（性的）愛情は、他の側面に基づいて構築する必要がある。でなければ、失敗し、失望させる。ギリシャ人が用いる愛を表現する言葉がある。そのうち3つが新約聖書に用いられている。「アガペ」は無条件で献身的な愛である。この種の意志による愛には、関係の基礎を形成しなければならない。フィリオは感情的な友情愛である。この仲間愛は、夫婦がものごとを一緒にすることを学び、お互いの性格や興味をより深く理解することによって形成される。最後に、エロスは肉体的で官能的な愛である。この種の愛は結婚の夜のために備えるものである。あらゆる形態の愛の絶頂であり、実りである。

招き：2：8－17

第二章では、ソロモンがシュラムの女の家に来て出かけようと招いたときのことを描写している。

彼女は、ソロモンを山をとび、丘をおどり越えて来るかもしかのごとく、若い雄じかのように彼女の家に行って繰る様子を描いている。突然、ソロモンは窓からのぞき込み、格子からうかがって、冒険に誘おうと語り掛ける。

ソロモンは、彼女に冬は去り、春が来たので、二人の愛を育むために出かける時であると告げた。ソロモンは愛情のこもった言葉をもって彼女を誘った。

いちじくの木はその実を結び、ぶどうの木は花咲いて、かんばしいにおいを放つ。わが愛する者よ、わが麗しき者よ、立って、出てきなさい。岩の裂け目、がけの隠れ場におけるわが

はとよ、あなたの顔を見せなさい。あなたの声を聞かせなさい。あなたの声は愛らしく、あなたの顔は美しい。われわれのためにきつねを捕えよ、ぶどう園を荒す小ぎつねを捕えよ、われわれのぶどう園は花盛りだから」と。

(雅歌 2 : 13 - 15)

男性は結婚前にロマンスを始めるのが得意な傾向がある。求愛中の傾向は直感的に起こる。しかし、後の結婚生活において、しばしば男性は責任を負うがロマンチックな冒険はしなくなる。結婚生活が長くなるにつれて、ロマンスを始めるために意図的な働きかけが必要となる。妻の方からロマンスを働きかけることを禁じる決まりはない(ソロモンの雅歌 7 : 11 - 13)。しかしながら、ほとんどの場合、女性は応答する者になるために配線され、男性は始める側であると考えられがちである。ソロモンから教訓を得て、妻が拒むことのできないようなロマンチックな冒険で驚かせましょう。

彼女は、ソロモンの招きに応じて、不本意な侵入者や邪魔者から彼らの愛を守ることを訴える。

われわれのためにきつねを捕えよ、ぶどう園を荒す小ぎつねを捕えよ、われわれのぶどう園は花盛りだから」と。

(雅歌 2 : 15)

ソロモンの日常生活は複雑であった。多くの厳しい任務を担っていただけでなく、彼の人生には、彼の注意を必要とする他の多くの女性が存在した。シュラムの女は、この瞬間のような情熱的で純粋な愛を維持するためには、それが深刻な決意と保護を要するということを賢明に知っていた。

彼女は、お互いのユニークな愛の温もりを感じる。恋人と共に野原で過ごす時と比較するに値する対象は存在しない！

わが愛する者はわたしのもの、わたしは彼のもの。彼はゆりの花の中で、その群れを養っている。(雅歌 2 : 15)

「私たちのぶどう畑を駆け回る狐を捕えよ。」愛の繁栄と成長の機会を奪い得るものは多く存在する。あなたの今日の生活の中で愛の成長の邪魔をする小さな狐は何でしょうか？寛容でない魂、不信、嫉妬、誇り、忙しさ、疲労、他人、趣味、子供、ソーシャルメディア、テレビ、幻想、中毒、健康の問題、私たちの心の奥深くに隠された傷、自己価値の欠如・・・あなただけが夫婦関係において、小さなキツネが何であるかを見定めることができる。しかし、それらの愛を破綻するものが何であるかを特定し、愛が適切に成長できるように健全な境界を作り出すことが重要である。その場合にのみ、あなたが経験するために神が設計してくださっている完全な喜びを収穫することができる。狐にぶどうを全部食い尽くされないようにしなければならない！

### 愛する人に熱望する : 3 : 1 - 5

シュラムの女は、二つの夢を見た。一つは結婚前に見た夢、もう一つは結婚後に見た夢であった。両方とも関係の緊張感を反映する。最初の夢で、彼女は愛する人と一緒にいたいと思っていたが、彼を見つけることはできなかった。

わたしは夜、床の上で、わが魂の愛する者をたずねた。わたしは彼をたずねたが、見つからなかった。わたしは彼を呼んだが、答がなかった。「わたしは今起きて、町をまわり歩き、街路や広場で、わが魂の愛する者をたずねよう」と、彼をたずねたが、見つからなかった。町をまわり歩く夜回りたちに出会ったので、「あなたがたは、わが魂の愛する者を見ましたか」と尋ねた。(雅歌 3 : 1 - 3)

彼女は、女性のロマンスの満開のあこがれを体感しているがこの段階では結婚によって得られる親密感を完熟させることはできない。彼女は十分な求愛段階にあった。彼女はソロモンとずっと一緒にいたいと願った！

彼女の夢は彼を見つけたときにのみ終わる。彼女は母親の寝室に彼を連れて来るまで彼を引き止めて行かせなかった（新婚初夜を過ごす部屋である）！

わたしが彼らと別れて行くとすぐ、わが魂の愛する者に出会った。わたしは彼を引き留めて行かせず、ついにわが母の家につれて行き、わたしを産んだ者のへやにはいった。エルサレムの娘たちよ、わたしは、もしかかと野の雌じかをさして、あなたがたに誓い、お願いする、愛のおのずから起るときまでは、ことさらに呼び起すことも、さますこともしないように。（雅歌3:4, 5）

繰り返し：（3：5、2：7、8：4）

エルサレムの娘たちよ、わたしは、もしかかと野の雌じかをさして、あなたがたに誓い、お願いする、愛のおのずから起るときまでは、ことさらに呼び起すことも、さますこともしないように。（雅歌2：7）

ここで繰り返すとは何と相応しいことでしょう。彼女の強い肉体的欲求は適切な時（結婚の夜）まで拘束されなければならない。

### ソロモン/シュラムの女とキリスト/教会との類似点

ソロモンの雅歌は、たとえ話ではない傍ら、私たちは理想的な人間同志の愛が神と人間の愛の反映である（べきである）ことを認識している。旧約聖書の中で、ヤハウエはイスラエル

の民を神の花嫁として描写している傍ら、新約聖書においては、教会がキリストの花嫁であると描写している。更に、夫と妻の間の愛は、キリストと教会の間の愛の反映であると教えている（エペソ人への手紙5：22, 23）。したがって、次の質問をする価値がある：ソロモンとシュラムの女の関係とキリストの教会との関係をどのように描くことができるでしょうか？熟考すべきいくつかの類似点をあげてみました。

1. シュラムの女に対するソロモンの愛が最高のワインよりも魅力的であるのと同様（1：2, 4）、イエス様の私たちへの愛は、尺度を超えて香しく、魂を深く満足させてくれる。色黒で素朴な性格であるシュラムの女をソロモン以上に完全に愛することが出来る人はいないと心から感じていた。彼の旗は愛であった（2：4）。彼女は豪華な愛に惚えて、ソロモンと一緒に酒宴の家に行った。結局のところ、欠陥や罪がある私たちをイエス様よりも完全に愛してくださる方は存在しない。私たちは、心を開くことによって、イエス様の愛に応答しなければならない。そうする時、イエス様は天の酒宴場の子羊の結婚の晩へと導いてくださる（ヨハネの黙示録19章）。

2. ソロモンがシュラムの女のところに来て、一緒に出掛けるよう招いたように、イエス様は、私たちのところに来てくださり、全ての人がイエス様との関係の内に真の命を見出すよう招いてくださっている。神は先に働きかけてくださる神である。しかし、私たちが神と共に生きる人生の喜びを体験するためには、神の招待に応答する必要がある。

3. シュラムの女は、魂の愛する者を訪ね町を歩き回るといふ悩ましい夢を見た（3：1-5）。しばらくの間、彼女は最終的に「心が慕うお方」を見つけ出すまで夢中に探し回った。同様に、実際、世界の多くの人々が、自分の魂の空を埋めてくれる人を必死に探し出そうとしている。すべての人の心には、神の形の穴があり、神のみがその穴を埋めることがで

きる。既婚者も、独身者も、独身に戻った者も、私たちは皆、何よりも、神と関係を持つために、神ご自身によって造られたということを忘れてはならない。人間の愛は、最も深い欲望を満たすには及ばない。イエス様はサマリヤ人の女に言われた：「あなたと話をしているこのわたしが、それである」（ヨハネ4章）イエス様だけが私たちの最も深い渇きを消し、私たちに命を与えてくださる水を持っておられる。

エルサレムの娘たちよ、わたしはあなたがたに誓い、お願いする、愛のおのずから起るときまでは、ことさらに呼び起すことも、さますこともしないように。（雅歌8：4）

## The Shulamite's Feminine Strength

Additional Notes to Message 11 - The Courtship: 1:1-2:17

by Shirley Shirock

シュラムの女の女性としての強さ

その他の注意事項 - 求愛

シャーリー・シャイロック牧師婦人による

### 1. 自身の価値と尊厳を正確に見ていた。

A. 彼女は不安を感じることなく、ソロモンの名声を他の何百人もの女性とともに肯定することが出来た。ソロモンは多くの人に賞賛されていた！

あなたのおい油はかんばしく、あなたの名は注がれたにおい油のようです。それゆえ、おとめたちはあなたを愛するのです。・・・おとめたちは真心をもってあなたを愛します。（雅歌1：3，4）

B. 彼女は自分の価値を信じていたので、エルサレムの娘たちとは違っていたが、彼女の勇気がエルサレムの娘たちに「わたしは美しい」と宣言させた。

エルサレムの娘たちよ、わたしは黒いけれども美しい。ケダルの天幕のように、ソロモンのとばりのように。（1：5）

C. 彼女は混合家族による虐待に耐えてきた。それは彼女の日常生活と個人的な外観に影響を及ぼした。それにもかかわらず、彼女は女性として、自尊心と自信を備えていた。

自分を投げ出すことなく、むしろ自身を大切にしていた。

わたしが日に焼けているがために、日がわたしを焼いたがために、わたしを見つめてはならない。わが母の子らは怒って、わたしにぶどう園を守らせた。しかし、わたしは自分のぶどう園を守らなかった。（雅歌1：6）

わたしのものであるぶどう園は、わたしの前にある。（8：12）

（彼女はぶどう園のイメージを用いて第1章と第8章において女性の身体と人格を説明している。）

### 2. ソロモンへの愛と慕いを表現することを恐れなかった。

彼女は結婚式の日が近づくにつれ、エルサレムと王女たち、また、処女の娘たちから離れ、ソロモンと二人きりになってロマンチックな愛を味わうことを楽しみにしていた。彼女は恐れなかった。

あなたの愛はぶどう酒にまさり、（1：2）

あなたのあとについて、行かせてください。わたしたちは急いでまいりましょう。（1：4）

彼はわたしを酒宴の家に連れて行った。わたしの上にひるがえる彼の旗は愛であった。干ぶどうをもって、わたしに力をつけ、りんごをもって、わたしに元気をつけてください。わたしは愛のために病みわずらっているのです。(2:4, 5)

### 3. 彼女は自身の境界を知り、それらを肯定した。

エルサレムの娘たちよ、わたしは、かもしかと野の雌じかをさして、あなたがたに誓い、お願いする、愛のおのずから起るときまでは、ことさらに呼び起すことも、さますこともないように。(2:7, 3:5, 8:4)

結婚によって夫婦の愛を完全に表現できるようになるまで、自分の感情とロマンチックな情熱を自制するように他の女性に三度にわたりアドバイスした。

わが妹、わが花嫁は閉じた園、閉じた園、封じた泉のようだ。(4:12)

おとめたちは彼女を見て、さいわいな者ととなえ、王妃たち、そばめたちもまた、彼女を見て、ほめた。(6:9)

雅歌を通して彼女の美しさは賞賛されてきたが、彼女の純潔を守り、また男性の「情熱を喚起しない」よう役割を果たした。

男性は女性の心を尊重して「愛を喚起しない」ようにする必要がある。ブレーキを保ちましょう！彼女の心を開くことは肉体的な親密さのための彼女の欲望になる。